

ボート競技（全種別） 10月1日～4日 円山川城崎漕艇場

ボートのまち城崎を全国にアピール



▲「ラストー！」大声援を受け、最後の力漕をする選手たち
（少年男子舵手付クォドルブル）

これまで城崎では、円山川下流域を舞台に世界大会開催も視野に入れながら、さまざまなボート競技を実施しました。

そして今回、念願の国体ボート競技を無事に開催することができ、「ボートのまち城崎」を全国にアピールすることができました。

また、地元の夢と熱い声援を一身に受けた豊岡出身の選手は、成年男子舵手付きフォア、成年男子ダブルスの部で熱戦を繰り広げるも、それぞれ準決勝で惜敗。少年男子シングルスカルでは予選敗退となりました。



▲兵庫県チームを応援する地元高校生「がんばれー！」



▲出漕後、艇を運ぶ兵庫県選抜クルー。2日目の敗者復活戦を勝ち抜いたが、3日目の準決勝で惜敗した



▲他府県から続々と集まる選手団。一致団結し大会に臨む



▲雨の中でも競技運営ボランティアを務め上げた城崎中学校の生徒たち

美しいまちをアピール



清掃ボランティア
山田 勝さん
（城崎町湯島）

私たち城崎町環境衛生推進協議会から14人が清掃ボランティアとして国体に参加しました。全国から訪れたすべての人に、城崎でのよい思い出を持って帰ってもらえるように、万全の態勢で臨みました。

夢の実現に感動しました



円山川城崎ボート協会会長
結城 紘一さん
（城崎町湯島）

国体のボート競技がここ城崎で行われ、「夢が実現した」という心境です。円山川の川面を疾走する選手の姿に胸が熱くなりました。多くの方のご尽力と円山川の持つ魅力が皆さんに伝えられたと思います。

自然環境や景観が最高です



来年の国体ボート競技開催地
秋田県大湯村長
黒瀬 喜多さん

日本有数の名湯「城崎温泉」を横目に、緩やかに流れる円山川。全国から訪れる選手団を受け入れるには最高のステージです。私たちも今回の視察を参考にして、来年の国体を村民3,300人みんなで盛り上げます。

ソフトボール競技（成年女子） 10月1日～4日 但馬ドーム・植村直己記念スポーツ公園

盛り上がった地域応援団



9月の世界選手権で活躍した選手も各県を代表して参加し、レベルの高い大会となりました。また、地元では、各チームを応援する地域応援団16団が結成され、真心こもった応援が選手に感動を与えとともに大会を大いに盛り上げました。

なお、競技は、神奈川県が6年ぶり4回目の優勝を果たしました。



▲競技を盛り上げた地域応援団。閉幕後、公民館で応援したチームと親睦会を行った応援団もあった



▲世界最速の上野由岐子投手は群馬県代表で2試合に出場。しかし、6連覇の夢を果たせず準決勝で涙を飲んだ



左上:決勝で愛媛県を9対1で破り、優勝した神奈川県チーム

左下:来場者にはボランティアが日高名物「マロニエ鍋」をふるまった

上:土煙を上げてホームにスライディング。世界クラスのプレーが随所で披露された

とても緊張しました



審判員
山根 文夫さん
(日高町鶴岡)

4年前から国体に向けて多くの大会や研修会に参加し準備を進めてきました。開幕直後の球審を務めましたが、得点が入るまでとても緊張しました。ルールを的確に適用し、選手の方に楽しんでもらえる試合運営に心がけました。今後も、地域の大会に審判員として参加し、この経験を活かしたいと思います。

多くの人と知り合えました



競技放送員
北垣 玲子さん
(日高町山宮)

決勝戦を含め2試合、競技放送を務めました。ゆっくりしゃべって、タイミングのよいアナウンスに心がけましたが、自己採点は70点というところでしょうか。選手たちの生き生きとしたプレーを間近に見ることができ、国体を通じて多くの人と知り合えることができました。よい思い出になりました。

応援団をやってよかった



三方中央応援団代表
吉田 順一さん
(日高町栗山)

私たちが応援した神奈川県が優勝して感無量です。国体本番まで練習や準備などで大変でしたが、すべてがうまくいきホッとしました。これも試合ごとに入れ替わり立ち替わり応援に参加いただいた地域の皆さんのお陰です。監督からも「最高の応援団」というお褒めの言葉をいただき疲れも吹っ飛びました。